

「コワカレ」するコンブ

名 畑 進 一

追いやられているという可能性もあります。

「コワカレ」といいますと、コンブ漁業者の方ならずくに、「ネコのことだな」と気付かれるでしょう。北海道に分布しているコンブ科の海藻には、コンブ属・ミスジコンブ属・トロロコンブ属・スジメ属・アナメ属・ネコアシコンブ属の六つの仲間があります。このなかでネコアシコンブ属は、再生する際の新葉の形成方法が特に変わっているコンブですので、ここにご紹介したいと思います。

ネコアシコンブ属には、ネコアシコンブとチシマネコアシコンブの2種類がありますが、後者は北海道には分布していません。ネコアシコンブの北海道における分布は、図1に示しましたように、釧路の昆布森から根室の太平洋側にかけての比較的狭い範囲です。生育場所は外海に面した岩礁域で、ナガコンブやガツガラコンブ(アツバコンブ)よりやや深く、水深五〜七mのところに多く生育しています。しかし浅所にもみられることがありますので、深所を好んで生活するコンブというよりは、他のコンブとの競争に負けて深所に

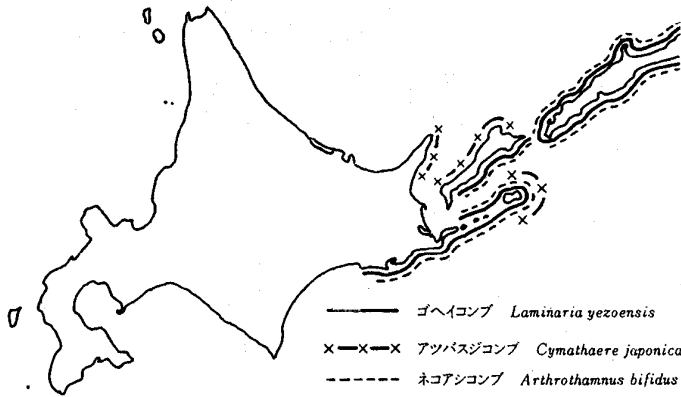


図1 コンブ類の分布 : ゴヘイコンブ、アツバシコンブ、ネコアシコンブ (川嶋 1989 より)

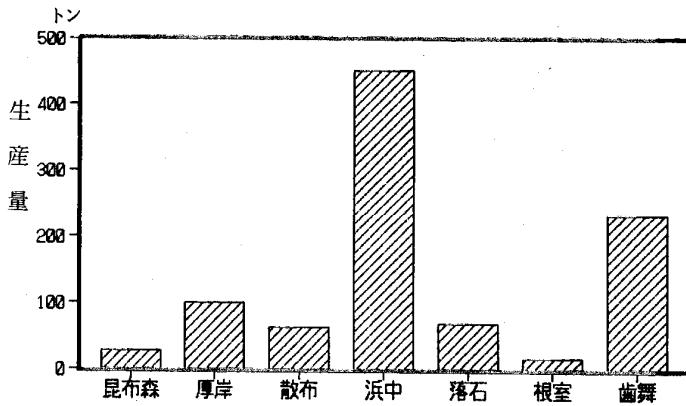


図2 ネコアシコンブの生産量 (昭和62年〜平成1年の3カ年間の平均値)

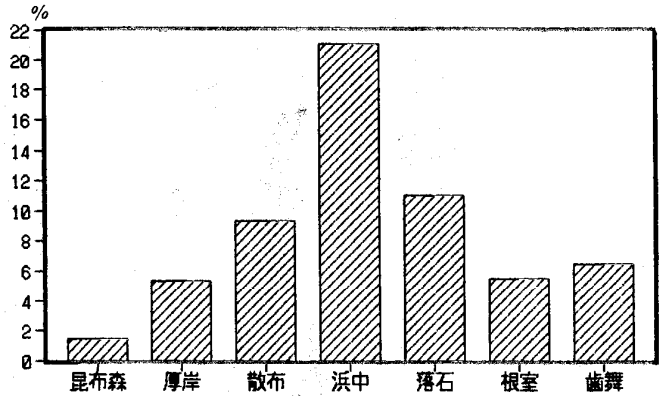


図3 コンブ総生産量に占めるネコアシコンブ生産量の割合
(昭和62年～平成1年の3カ年間の平均値)

図2に漁協ごとの昭和六十二年～平成一年の三ヶ年間のネコアシコンブの生産量を示しました。ネコアシコンブは浜中漁協が四一・八トンで最も多く、次いで歯舞漁協、厚岸漁協の順で続きます。また同年のコンブ総生産量に占めるネコアシコンブ生産量の割合は(図3)、浜中漁協で二一・一%と最も高く次いで落石漁協、散布漁協の順でした。ネコアシコンブの分布の最南西端に近い昆布森漁

協では生産量も割合も少ない傾向がみられます。

ネコアシコンブの身入り時期はナガコンブなどより遅いので、十月～十一月頃に採取されます。マンニットを多く含んでいますので甘みとトロロ分が多く、とろろ昆布やおぼろ昆布などの加工用として利用されています。またノレンのようにつるして、強い風にさらしながら乾し上げると、マンニットが表面に真っ白く浮き出た昆布に仕上がります。これを「はたかせ昆布」と呼び、なめると甘いので子供のおやつになった時代もあったそうですが、今はほとんどつくられていません。

ネコアシコンブとは、茎と根の形が猫の足先に似ているためにつけられた名前ですが、**耳形に似てはいますが、根も葉もネコアシコンブと異なり、葉は乾かして打ち上げられます。**この現象や流れ着くコンブ自体のことを、漁業関係者は「コワカレ」と呼んでいます。コワカレは商品価値が低いので、ナガコンブのように一本一本並べて乾し上げることができません。乾場に雑多にまき散らし、棒でかくはんして乾し上げるため、このことを「子どものだはんなど」といいう言い方由来すると思われる「だはん乾し」と呼んでいます。また出荷の際も雑多に押し固めて二十kgの箱型としています。コワカレの量は浜中漁協の場合で、ネコアシコンブ生産量の約二十%です。

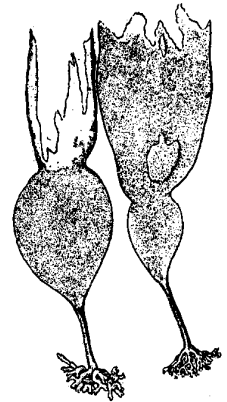


図4 モチアゲコンブ
(山田 1948より)

それではコワカレはどのようにしてできるのでしょうか？ ナガコンブなどが二年コンブとして新葉をつくるときは、葉の基部にある成長帯と呼ぶ部分の細胞分裂が盛んになって、図4のようなモチアゲコンブの状態になります。しかしネコアシコンブの場合には、葉の基部の両側にある通常ミミと称する突起(耳形体)があつて(図5の1)、これが成長して一～二月頃に二年目の新葉がつくられ始めます(図5の2)。真ん中の旧葉はだんだん枯れて短くなりながら、**葉が図5の3のようになって脱落し、葉も根もないコワカレとなり**ます。したがって葉の数は、ガマの油売りの口上のように一枚が二枚、二枚が四枚、四枚が八枚……と、年数とともに増えていきます。この特徴からネコアシコンブの寿命は四～五年と考えられています。

キタキツネなどに見られる「仔別れ」は、生活領域などの確保のために、親が一人前になった仔を追いやることです。しかしネコアシコンブの場合、コワカレ後の茎と根および

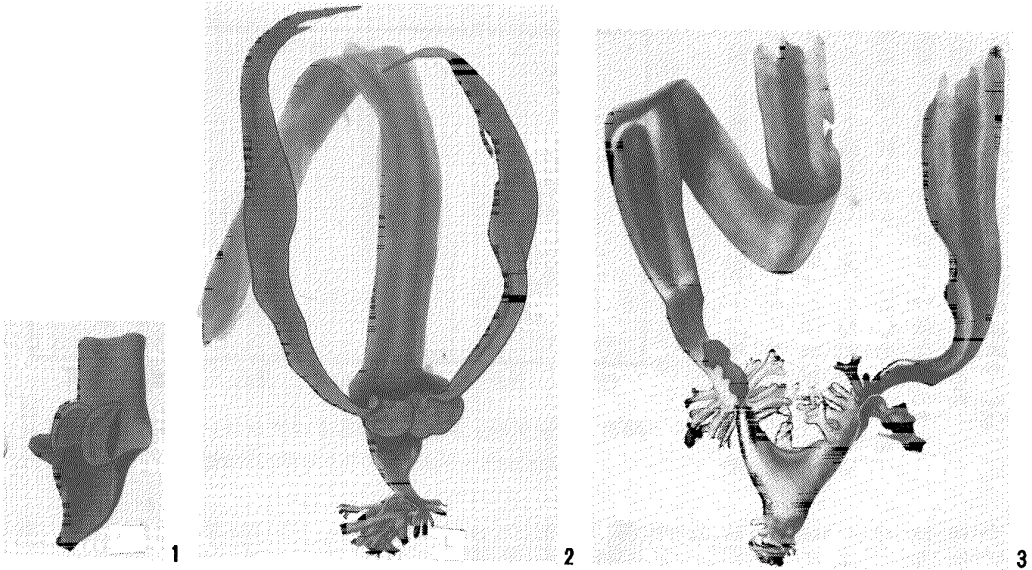


図5 ネコアシコンブの再生のようす

(川嶋 1989 より)

流れ去る旧葉は親で、新葉は子ですので、親と子が別れるのには違いがないのですが、実のところは「親別れ」です。ともかく「親はなくとも子は育つ」というところでしょうか。

ネコアシコンブの資源は、主としてナガコンブなどのように遊走子の発芽によって維持されているのか、コワカレによって維持されているのかわかっていません。ナガコンブが不漁の年にはネコアシコンブへの依存度が高くなるようですので、ネコアシコンブの採り過ぎには十分注意を要し、資源量の安定を図る必要があります。

最後になりましたが、コンブの生産量等資料を提供していただいた、関係の漁協・水産技術普及指導所に対して厚くお礼申し上げます。

(なばた しんいち
増殖部)